

1985 年 雑木の会 ドルジェラクパ峰(ジュガルヒマール山群)6966m
登頂から 40 年を記念してネパールの山を訪ねた



I.10/1～10/7 エベレスト街道

行程日数：7 日 行動時間：45 時間 歩行距離：60 km

カトマンズ(トリブバン空港)⇒飛行機⇒ルクラ(Lukla)2840m

ルクラ(Lukla)2840m→ディンボチェ(Dungboche)4410m～トクラ
(Thokla)4620m～馬～ペリチェ(Pheriche)4240m

ペリチェ(Pheriche)⇒ヘリコプター⇒カトマンズ

II.10/12～10/17 ランタン溪谷

行程日数：6 日 行動時間：58 時間 歩行距離：62 km

カトマンズ⇒車⇒シャブルベンシ(Syabrubesi)1503m～キャンジン
(kyanjin)3830m～キャンジンリ(Kyanjin Ri)4400m→シャブルベンシ
(Syabrubesi)⇒車⇒カトマンズ

III.10/19～10/21 ポカラ観光

カトマンズ⇄ポカラ(往復バス)

ポカラではフェア湖(Phewa Lake)周辺を観光、最後にはアンナプルナ山群の圧巻をより近くからと、サランコット(Sarancot)まで足を延ばし、夕陽に映えるアンナプルナ山群を飽かず眺めた

トレッキング初日から雨に見舞われ、その天候不順はネパール全土に洪水や土砂被害をもたらし、エベレスト方面でも季節外れの大雪による遭難者が続出したとはカトマンズに戻ってから知った

エベレスト街道トクラ(Thokla:4620m)において、高山病発症に対応を迫られるも高度を下げ治療対応の結果回復、このアクシデント、ハプニングでは言葉も不自由な異国の地で関係皆様の優しさには心から感謝するばかりでした

天候について振り返れば、10月初旬に連続して雨と雪に見舞われ、驚いた事にディンボチェ(Dingboche)4410mでは時ならぬ大雪に雪下ろしに奮闘する各ロッジには数日間足止めされたトレッカー達で溢れていた。その荒天により、中国を含むエベレスト周辺は大雪による遭難や行動不能者が多発していたことはカトマンズに戻ってから報道で知った

ランタン溪谷

ランタンリルン、ガンチェンポを背に大きく開けた谷「世界一美しい谷の一つ」と感嘆したティルマンもこの変貌には驚くに違い無かろう

自然石と竹で作った素朴な住まいは人口加工の石作りに、灯りはランプから電気に変わり、村を繋げるように並ぶ電柱と電線に目を見張る。旅のトレッカーが自然保護、破壊等と嘆くのは慎もう、この恩恵に預かるのは他ならぬこの地に生きる人々なのだから、一方ではエベレスト街道の電線地下埋設等景観保護方法もあるのだがなど・・・
これさえも一トレッカーの安直な思いかも知れない

地震により、人々の支えとされてきたゴンパも家々も人々も、村の多くが埋め尽くされたという地変を乗り越え、かつて想像もし得なかった人工設備、地震による慰霊碑、建替えられたストーパー、ゴンパ、水力で常時回るようになったマニ車、氷河湖から水を引き込んだ発電所、平屋が多層建てとなった新しいロッジやホテルに電気が灯り、あのキャンジンゴンパもチーズ小屋も新しく大きな建物に変わり、氷河湖からは発電所に落ちる水管が走る・・・

それでもあの懐かしいランタンの谷と山々が目の前にありながら、変貌の驚きとがないまぜとなりながらもなぜか愛おしさを禁じ得ない
キャンジンリの眼前には、明けたばかりのランタンリルン、ヤラピーク、ガンチェンボが、そしてその奥には我らがドルジェラクバ峰が佇んでいるはず、残念ながらここからは見えない、それでも遠き日が蘇るような感に浸ることができた

ふり返ればランタンリルン、ガンチェンボが佇むランタンの谷を少しもの悲しい思いで降ってきた



雑木の会 佐藤 俊明